

国語（中学校）

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

授業改善のための言語活動の創意工夫

・知識・技能を相互に関連付けながら、思考・判断・表現する場を設定し、課題の解決に向けて、生徒が主体的に試行錯誤する過程で、資質・能力を育成することが求められる。

生徒の課題と指導のポイント

- ・「論理的な文章を書くこと」「展開・情報を整理して読むこと・聞くこと」に課題がある。
- ・単元（言語活動）を通して習得すべき資質・能力と、評価規準を生徒と共有する。

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待って	語らせつないで	認め励ます
<p>■言語活動の質の向上 言葉を通して理解したり、理解したことに基づいて自分の考えを表現したりする言語活動を設定する。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が実際に試行して、言葉による見方・考え方を働かせる場面を精査したり、評価規準を定めたりする。 ・教育活動全体で「言語活動」のカリ・マネをして、活用の場を創出し、習得した資質・能力を確かなものにする。 	<p>■学習過程「共有」の重視 〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域に共通する学習過程「共有」を重視して、他の考えと比較することで自身の良さや改善点を明らかにしたり、考えを広げたり深めたりして、言葉への自覚を高める。</p> <p>◇手立ての例（B書くこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推敲に役立つ助言をお互いに得るため、文章を読み合う活動の前に、評価の「観点」と「伝え方」の共有が必要である。 	<p>■指導と評価の一体化 言語活動の学習過程に即して、教師によるフィードバック（個人内評価、目標に準拠した評価）を工夫し、時期を逃さず生徒に返す。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テストの事後指導、表現物への助言、パフォーマンス評価、面接等、様々な評価方法を適宜取り入れる。指導事項に即して観点別評価を示すことやICTを活用することも効果的。

「学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」の付録4は、教科と学年の目標、内容について小・中を見通せる系統表です。指導事項と言語活動例が一目で分かります。小学校の頁も参考にしましょう。



ICT活用について

*** 生徒の「言語活用能力の育成」「資質・能力の習得」のために活用する。**

即時性、再現性、効率性等、ICT機器の利点を吟味して。有効な場面で活用する。

*** 学習過程に即した活用場面（例）**

情報を収集して整理する場面（インターネットで収集 データベース 共有フォルダ等）

・目的に応じて情報の適否を判断し、取捨選択する「情報活用能力」の育成を図る。

自分の考えを深める場面（付箋の操作で構成 校閲機能で助言や推敲 意見の比較等）

・校閲機能等は、教員から生徒へのフィードバック評価の際にも活用する。

【参考】令和4年度全国学力・学習状況調査 ②（意見文を書く（「先端技術とのかかわり方」））

考えたことを表現・共有する場面（スピーチ等を録画で確認 資料作成）

知識・技能の習得を図る場面（古典や漢文の朗読や書写の書き方などの視聴）

学習の見通しをもったり、学習した内容を蓄積したりする場面

（言語活動のモデルの提示 学習内容を個人フォルダに記録し、長期間で生徒が学びの履歴を振り返るために活用する）

*** 文房具としてICT端末を生徒自身が選択する場を言語活動の中に設定する。**

*** アナログとデジタルを併用する。**例えば「紙に書くこと」が有効な場面もある。